

新学習指導要領を踏まえた学習評価の在り方に関する研究 （中間報告）

学習評価は、学習指導要領に示す目標や内容に照らし、児童生徒の学習状況を評価するものである。教師が児童生徒の学習の成果を的確に捉え、指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにしていく必要がある。そこで、学習評価を教師の授業改善や児童生徒の学習改善につなげる効果的な「指導と評価」の在り方について研究を進めた。また、3観点の一つ「主体的に学習に取り組む態度」に焦点を当て、それを見取るための視点や方策について探ることで児童生徒の学習改善につなげることを目指している。

<検索用キーワード> 学習評価 指導と評価の一体化 授業改善 学習改善
主体的に学習に取り組む態度 振り返り 授業マネジメントシート

研究協議会顧問

愛知教育大学教育学部准教授 竹川 慎哉（令和2，3年度）

研究協議会委員

あま市立美和小学校教諭	高井 基行（令和3年度）
知立市立知立小学校教諭	正木 郁子（令和3年度）
瀬戸市立にじの丘中学校教諭	嶋津 智子（令和3年度）
蒲郡市立塩津中学校教諭	羽田 康則（令和3年度）
愛知県立豊田工科高等学校教諭	牧野 裕也（令和3年度）
愛知県立知立東高等学校教諭	野村 考平（令和3年度）
愛知県立一宮豊学校教諭	濱地 航平（令和3年度）
総合教育センター研究指導主事（現新城市立東郷中学校教諭）	林 栄治（令和2年度）
総合教育センター研究指導主事（現東海市立平洲小学校教諭）	是枝 享子（令和2年度）
総合教育センター研究指導主事（現教科研究室長）	内山 真一（令和2年度）
総合教育センター経営研究室長	浅倉 幸代（令和2，3年度）
総合教育センター研究指導主事	津田 博史（令和2，3年度）
総合教育センター研究指導主事	松井 亮（令和3年度）
総合教育センター研究指導主事	佐々木 博（令和3年度）
総合教育センター研究指導主事	原田 拳志（令和3年度）
総合教育センター研究指導主事	猪狩 雄一（令和3年度）
総合教育センター研究指導主事	杉浦 直樹（令和3年度）
総合教育センター研究指導主事	太田 恵里（令和2，3年度主務者）

1 はじめに

子どもたちが、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び

続けることができるようにするためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要である。授業改善を通して各教科等における資質・能力を育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。学習評価は、学校における教育活動に際し、学習指導要領に示す目標や内容に照らし、児童生徒の学習状況を評価するものである。教師が児童生徒の学習の成果を的確に捉え、指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにしていく必要がある。そのため、教育課程や学習・指導方法の改善と一体的に学習評価に取り組むことが大切である。

新学習指導要領では、全教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理され、各教科でどのような資質・能力の育成を目指すのが明確化された。それに伴い、観点別学習状況の評価は4観点から「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到再編成された。その中でも「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする過程を通して行うものである。この観点のみ取り出して形式的態度を評価することは適当ではなく、他の観点に関わる児童生徒の学習状況と照らし合わせながら学習と指導の改善を図ることが重要であるが、何を見て評価すればよいのか捉えにくいという戸惑いの声も聞こえてくる。

そこで、本研究では、学習評価を教師の授業改善や児童生徒の学習改善につなげる効果的な「指導と評価」の在り方について研究を進める。また、3観点の一つ「主体的に学習に取り組む態度」に焦点を当て、それを見取るための視点や方策について探ることで児童生徒の学習改善につなげることを目指している。

2 研究の目的

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、教師の授業改善や児童生徒の学習改善につながる効果的な「指導と評価」の在り方に関する研究を進め、研究協力校による実践研究を行うことで、各校種における学習評価への理解を深め、その充実に資する。

3 研究の方法

研究協力校（小学校2校，中学校2校，高等学校2校，特別支援学校1校）の代表委員と所員による研究協議を行い、協力校での実践を通して、協議の内容についての成果と課題を検証する。

(1) 学習評価の在り方に関する協議（令和2年度～）

国立教育政策研究所教育課程研究センターの『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』及び『学習評価の在り方ハンドブック』を基に、学習評価の基本的な考え方や観点別学習状況の評価について情報を収集、協議を行った。指導と評価の一体化を実現するための効果的な方策として、授業マネジメントシートと振り返りの方法について検討する。

(2) 「指導と評価の一体化」に向けた授業マネジメントシートの作成と活用（令和3・4年度）

「指導と評価の一体化」や評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立のために、単元での学習活動、評価方法、振り返りの視点及びタイミング、事後の授業改善に向けた取組等を記入する欄を設けた授業マネジメントシートを作成する。それを基に、研究協力校で授業実践を行い、協議、改善を重ね、学校の実状に合わせて活用しやすいものにする。

(3) 効果的な振り返りについての協議・実践（令和3・4年度）

児童生徒の発達段階や実態に応じた振り返りの方法や問い、視点について協議し、研究協力校で

実践を行う。振り返りシートを活用した実践では、それをどう評価するか協議をする。その実践を基に、「主体的に学習に取り組む態度」を見取るための視点の一つとして生かす方策を探る。

(4) 授業改善と学習改善に向けての授業実践とその成果や課題についての検証（令和5年度）

本研究における協議や実践を通して、教師の授業改善や児童生徒の学習改善につなげることができたか、アンケートや振り返りの記述、授業への取組等から検証し、その成果と課題についてまとめる。

4 研究の内容

当センターにおいて全5回の研究協議会と、各研究協力校において研究推進、研究授業を行った。以下は、センターにおける協議会の活動内容である。

月 日	活 動 内 容
6月16日	第1回研究協議会 会場：総合教育センター 研究の概要，研究方針の説明 研究協力校代表委員と情報交換及び方向性についての共通理解
7月30日	第2回研究協議会 会場：総合教育センター 指導と評価の一体化に向けた取組についての協議，情報交換
10月18日	第3回研究協議会 会場：総合教育センター 指導と評価の一体化に向けた取組についての協議，発表会資料の検討
11月10日	第4回研究協議会 会場：総合教育センター 発表会に向けてのリハーサル，本年度の研究のまとめについて（研究紀要）
11月26日	第61回総合教育センター研究発表会（中間報告）
2月1日	第5回研究協議会 会場：総合教育センター センター研究発表会の振り返りと次年度への取組について

以下に、各学校の実践を紹介する。

(1) あま市立美和小学校の実践

ア 研究の経過

月 日	活 動 内 容
6月下旬	全職員に学習評価に関するアンケート調査実施
夏季休業中	授業マネジメントシートおよび指導案検討
9月6日	授業実践 3年生理科 会場：美和小学校 研究協議会 愛知教育大学 竹川准教授参加 授業マネジメントシート活用の意義の共通理解

イ 実践

授業マネジメントシートと振り返りシートを活用した「指導と評価の一体化」を目指し、まず、3年生の理科で授業実践に取り組んだ。3年生で実践を行った単元は「音を出してしらべよう」である。授業マネジメントシートを作成する際、学校独自に評価の視点という欄を新たに設けて「主体的に学習に取り組む態度」だけでなく、「知識・技能」，「思考・判断・表現」についても評価計画を記載することとした。また、評価規準を明記することで、目指す児童の姿を確認できるようにしたいと考えた。振り返りについては、単元を通して使用する「音のひみつ発見ノート」と名付けた振り返りシ

ートを作成し、本時のめあてと学習内容に応じた内容の振り返りを毎時間書かせる形式とした。

第1時では、教師の自作打楽器の音が出ているときの打面の様子の観察を行った。子どもたちは学習のめあてを意識して、実際に楽器の打面に触れながら、「音のひみつ」は『ふるえ』にあることに気付いていった。

授業を終えた後、本研究の顧問である愛知教育大学の竹川准教授の指導の下、研究協議会を行った。コロナ禍で、職員全員参加の協議会ができなかったため、授業後の協議会の様子を校内でオンライン配信し、全職員が視聴することで、研究に対する意識を高め、共通理解を図ることができた。

第5時の振り返りシートには、聞こえやすい糸電話を作る計画をしっかりと立てる様子が記されていた。また、糸電話を作って試した結果、「穴をもう少し小さくすればよかった」「糸をピンとのばす」といった聞こえやすい糸電話を作るための分かったこと、気付いたことのポイントを押さえて振り返ることができた。

また、子どもの発見が、クラス全体に伝わっていくような学び合いの環境が自然とできていった。例えば、音を出している楽器がふるえていることを調べる実験では、より振動が分かりやすい



【写真1 付箋の貼り方に気付く】

付箋の貼り方に気付いた子どもの様子を見た別の子どもが真似をし、仲間に伝えたことで自然とクラス全体に付箋を貼るという方法が伝わっていった（写真1）。

Aは、振り返りシートに「100点」と自己評価したが、教師による見取りでは、自己調整力を発揮して学ぶことができていないと判断された。糸電話に必要な材料が思い浮かばず、紙コップの代わりに折り紙で作る計画を立てたものの、折り紙糸電話はよく聞こえなかった。うまくいかなかった理由を、自分なりに分析し、記述することはできなかった。このように、子どもの自己評価と教師の評価に解離が見られることもあった。あくまで振り返りは一手段であり、教師は子どもの振り返りのみで評価をしてしまわないようにしなくてはいけないことを再認識した。

この授業において授業マネジメントシートを活用したことにより、教師は計画的に指導と評価を一体化させる意識をもち、授業に取り組むことができた。そして「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を意識して授業を進めることができた。また、子どもの変容した姿として、「これはどうして」というような疑問が出やすくなったと感じた。

ウ 成果と課題

3年生の授業実践を通して、次のような成果があった。授業マネジメントシートを活用することで、教師が意図的に話し合いの場を仕組むことができた。振り返りによる子ども同士の考えの共有の場ができたため、子どもの発見が自然とクラス全体に伝わっていくような、学び合いの環境ができた。単元の学習を通して主体性が向上し、活発に学習内容について共有をすることができたと言える。また、理科の記述式解答を苦手とする児童も「ふるえ」「しんどう」といったキーワードを使って正しく答えることができ、テストの平均点が普段より上がり、学力の向上が見られた。これは、たくさん試行錯誤し、伝え合ったことが原因の一つであると考えられる。

経験が浅い教員は、児童に考えさせる前に教師から教具を提示してしまうことがあった。しかし、授業マネジメントシートを活用し、授業改善を目指したことで、授業についての課題を視覚化することができ、児童の考えを生かしたり、いくつかの道具を用意して提示して選ばせたりするなど、次時以降の教材研究に生かすことができた。今回作成した「授業マネジメントシート」と「振り返りシート」を今後の研究の足がかりとするために、校内ファイルサーバに入れ、なおかつ学年ごとにファイ

ルに綴ることで、校内で共有し、次年度以降も活用しやすいように工夫していきたい。

単元の最初と最後だけでなく、途中でも毎回振り返りシートを書かせたことで、授業時間内に書かせることができないことがあった。また、振り返りシートを理科ノートとしても使うことで、子どもたちにとっては分かりやすかったが、シートの作成に時間がかかってしまった。児童の振り返りシートを毎時間点検するのは時間がかかる。教師の仕事の業務改善も視野に入れつつ、書かせる目的を明確にし、汎用性を高められるよう、よりよい方法を工夫し、本研究に取り組んでいきたい。

(2) 瀬戸市立にじの丘中学校の実践

ア 研究の経過

月 日	活 動 内 容
4月1日	職員会議にて、今年度の現職教育について説明 小中合同教科部会にて、学習規律について確認
5月20日	中学校教科部会にて、学習評価について確認 中学校教科部会にて、今年度現職教育のテーマに取り組む単元と単元構成についての協議、学習指導案作成について確認
6月16日	「第1回協議会」を受け、校長以下6名で研究の方向性についての相談
6月24日	本校職員への研究内容の周知 中学校国語科教科部会にて、授業マネジメントシートを用いた3年国語の単元構成について協議・検討
7月上旬	授業マネジメントシートを活用した授業実践（3年国語）
夏季休業中	中学校国語科教科部会にて授業マネジメントシートおよび指導案検討 中学校社会科及び外国語科における授業マネジメントシートの作成
9月上旬	振り返りシートを用いた授業実践（3年国語）
9月27日	小学校2名，中学校2名による，現職教育のテーマに沿った公開授業

イ 実践

今年度、本研究協力校で取り組んでいる現職教育のテーマは、「協働する子供たち 集団から仲間、仲間からチームへ ～各教科の授業における協働型課題解決能力の育成を通して～」である。全教科で取り組むことで、協働型課題解決能力の育成を目指す。授業の展開に、手だてをどう組み込み、授業展開や単元構成をどのように組み立てるかが重要となる研究であるため、授業マネジメントシートを活用できないかと考えた。

(ア) 授業マネジメントシートを利用した実践

3年国語「俳句の可能性」「俳句を味わう」で取り組んだ。大きく三つのまとまりで単元構成を考え、「Ⅰ 教科書本文を用いて重要語句についてのまとめ文を作成し、それらを互いに読み合うことで自分の推敲に生かす」「Ⅱ 俳句の鑑賞文を作成し、相互評価することで推敲に生かす」「Ⅲ 自分で俳句を作成し、相互評価による俳句の改良を行う」（資料2）とした。内容は異なるが同じ活動を繰り返すことで、仲間との協働も磨かれ、推敲の技術も高まった生徒がほとんどだった。授業マネジメントシートによるバランスのよい単元構成と、評価から見た授業内容の修正により、協働につながる学びのある授業になったと感じている。単元を通して、評価の方法の改善点も見えた。今回の実践では、子どもたちの実態に合わせることを重視した結果、丁寧になりすぎ、時間をかけ過ぎてしまった。単元全体を通して、目指すべき子どもの姿を追い、めあてを考えていく必要性を感じた。

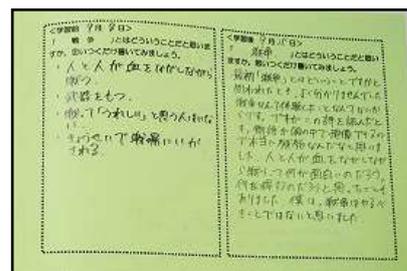
【資料② 生徒が作った俳句】



【資料③ 協働する生徒達】



【資料④ 振り返りシート】



(イ) 振り返りシートの実践

学習前後と、めあてごとに振り返るタイプのものを使用して、3年国語「挨拶」に取り組んだ。「Ⅰ 作品の背景をつかもう」「Ⅱ 表現に着目し、学習課題をつかもう」「Ⅲ 表現から作者の考えをつかもう」という三つのめあてを設定した。ⅠとⅡは1時間ずつ、Ⅲは、ヤマ場を意識した、3時間共通のめあてである。「学習前」と「学習後」とで、「戦争とはどういうことだと思いますか」という、共通のテーマで自分の考えを書かせた。

めあてごとの振り返りは、目標とすべき姿が生徒に見えやすくなると感じた。書かれた分量は、Ⅲが最も多くなっていたが、これは約9割の生徒に当てはまることであった。ヤマ場を含めた3時間であったため、めあてが自己評価として子どもたちにもイメージしやすいものだったからと考えられる。教員側の評価の意識と、子どものめあての合致が、より妥当な評価に繋がると感じた。

「学習前」と「学習後」については、書く分量が、全員増えていた(資料4)。内容は、授業を通して得た知識や、考えたことに留まっている生徒も多かったが、見た目でも「学習が深まった」という自覚を本人がもつことも、主体性を育てる上で大変重要なことだと感じた。

ウ 成果と課題

(ア) 授業マネジメントシートについて

単元を貫く目標に合わせた評価を設定することで「指導と評価の一体化」を図ることができる。この授業マネジメントシートを用いることで、評価の観点を明確にすることができた。結果、単元構成を考える手助けとなり、また、評価のポイントを見落とすことなく授業を進めることができた。

今回の実践では、本校の現職教育のテーマに合わせた手だてを入れ込むということを試みたが、授業マネジメントシートを用いることで単元構成の全体像を捉えやすくなり、手だてをより効果的に打つことができた。

課題は作成時の負担感である。掲載すべき情報が何であるのかを精選し、より簡易にすることで、作りやすさ・使いやすさを追求する必要があると感じた。また、目指す子ども像に近づけない場合、単元構成をどのように修正していくか、という点でも改良の余地を感じた。

次年度に向けて、より簡易で、かつ利便性の高い授業マネジメントシートにするために、シートの在り方をどうすべきかを検討していく。他教科でも実践をし、教科の特性も踏まえた授業マネジメントシートの作成に取り組むつもりである。

(イ) 振り返りシートについて

いろいろなパターンを比較・検討し、振り返りのための「問い」が、どういうものがよいのか考えていく。授業マネジメントシートと同じように、教科による特性が振り返りシートにも必要なのかという点についても、考えながら、研究を進めていく予定である。

(3) 愛知県立知立東高等学校の実践

ア 研究の経過

月 日	活 動 内 容
6月23日	本研究に関する趣旨説明・授業マネジメントシート作成依頼（教科主任会）
7月21日	授業マネジメントシート集約・意見集約
9月28日	授業マネジメントシートと振り返りシートを活用した授業実践（1年物理基礎） 研究協議 会場：愛知県立知立東高等学校

イ 実践

教科主任会を通じて本研究の趣旨を伝え、各教科1単元分のマネジメントシートを作成した。マネジメントシートの作成によって、「単元のどの場面で3観点のうちどの評価を行うのか明確になった」「各教科担当で評価する場面を統一できる」「年間指導計画と重なりがあるため思っていたより容易に作成できた」「単元のポイントが明確になった」など一定の有効性が確認できた。一方、「担当者によって、評価したい場面が違う場合はどうするか」などの問題点も浮き上がってきた。

授業実践は、物理基礎の「液体や気体から受ける力」の単元で行った。主体的に学習に取り組む態度」を記録に残して評価するために、実験の授業を利用して、実験の見通しをもたせたり、結果の考察ができるような振り返りシートを作成したりした。振り返りシートの記述を基に、主体的に学習に取り組む態度を評価し、研究協議を行った。その中で、「採点の基準にはないが、評価してあげたい記述の取り扱いをどうするか」「たくさん記述させると記述のどの部分を評価するのか曖昧になりやすい」という課題が浮き上がってきた。

ウ 成果と課題

本研究の成果として、来年度に向けて準備すべき課題が明確になったこと、主体的に学習に取り組む態度の評価方法がイメージしやすくなったことが挙げられる。これによって、職員で学習評価への関心を高めることができた。課題としては、マネジメントシートの有効性は確認できたものの、担当者間でどの場面で何を評価するのか決めておく必要があることが挙げられる。来年度までにできる範囲でマネジメントシートを蓄積していきたい。振り返りシートについても記録に残す部分の評価が曖昧にならないように、単元で求める姿を想像し、ポイントを絞った問い方を行うなどの改善が必要である。今後は、他の教科でも積極的な実践を促し、成果を共有することで学習評価の在り方に関する意識を高め、学校組織の活性化につなげていきたい。

(4) 愛知県立一宮聾学校の実践

ア 研究の経過

月日	活動内容
5月18日	中学部の職員に向けた通信「学習評価プラクティス」の定期発行開始
6月17日～	授業マネジメントシートを活用した実践 (以降、中学部1年生及び3年生の国語科を中心に実践を継続)
夏季休業中	授業マネジメントシートの活用事例を「学習評価プラクティス」の中で紹介、希望する職員に授業マネジメントシートのデータを頒布
9月21日	中学部1年生国語科における研究授業及び協議 顧問・総合教育センター所員による授業参観及び協議

イ 実践

9月に実施した、中学部1年生国語科「大人になれなかった弟たちに……」における実践を中心に紹介する。戦時下において、幼い命が失われる悲劇が描かれた物語文であり、「描写を基に登場人物の心情を考える」ことを主眼とした。まず授業マネジメントシートを作成した(資料5)。「主体的に学習に取り組む態度」は、「知識・技能」や「思考・判断・表現」に関わっていく中で見られる態度である。そのため、各学習場面で、生徒に期待する姿を具体的に記述するよう留意した。

【資料5 授業マネジメントシート(一部抜粋)】

時	目標	評価(知技)	評価(思判表)	評価(主)
1	時代背景を確認する。	戦時下の事物・事象を表す言葉について、語彙を豊かにしている。		書籍を参照し、目次や索引を確認しながら、知りたい内容を調べようとしている。
2	「弟」のミルクを盗み飲みした「僕」の心情を考える。		時代背景や文中の表現を基に、「僕」の心情を考えている(ロイロノートに入力)。	自分の取組を振り返り、自分にとっての課題を明らかにしようとしている。
3	家族を守る「母」に対する「僕」の心情を考える。		文脈や文中の表現を基に、「僕」の心情を考えている(ロイロノートに入力)。	自分の取組を振り返り、自分にとっての課題を明らかにしようとしている。
4	疎開先に向かう「僕」の心情を考える。		情景描写を基に、「僕」の心情を考えている(ロイロノートに入力)。	言葉を取捨選択しながら、粘り強く振り返りシートを書こうとしている。
5	「弟」を納棺したときの「母」の心情を考える。		文脈と描写を基に、「母」の心情を考えている(ロイロノートに入力)。	言葉を取捨選択しながら、粘り強く振り返りシートを書こうとしている。
6	題名に込められた思いを読み取り、単元を振り返る。		キーワードに着目して題名の意味を考え、発表している。	考えが深まったことやもっと知りたいことを振り返りシートに書こうとしている。

次に、振り返りシートを作成した。一部を資料6に示す。表の左側にロイロノートで生徒の入力した内容を貼付し、右側に振り返りを記入する形式とした。振り返りの仕方そのものを繰り返し指導することや、生徒が自分の思考過程を追うことをねらいとした。

授業を進める中で、形成的評価を基に授業改善を図った。例えば、ローマ字入力に時間を要する生徒がいたため、次時よりフリック入力を指導することで記入時間を短縮できた。

研究授業においては、「弟」を納棺した「母」の心情として「守りきれたような気持ち」「(「弟」は)よくがんばった」といった肯定的な記述が目立ち、母の無念を捉えきれていなかった。それまで「僕」の視点で読み進めていたため、「母」の立場での読み取りが不十分だったことが原因として考えられた。

研究授業後の協議では、「評価の場面として授業のヤマ場を設定すること」の重要性が議論された。本実践では、ヤマ場が「思考・判断・表現」の評価の場面となる。そこに至るまでに、前提となる知識及び技能を獲得できるような授業計画が必要である。つまり、これまで多大な犠牲を払ってまで家族を守ろうとしてきた「母」に寄り添う読み取りが不可欠であった。また、「思考・判断・表現」の評価の場としてヤマ場を設定しているので、資料5のように評価の材料を執拗に集める必要はないと言える。

【資料6 毎時間の振り返り】

また、「振り返りで限定的な問いかけをすること」についても意見が交わされた。指導者による問いかけと、生徒から得られた振り返りを資料7に示す。

【資料7 指導者による問いかけと生徒から得られた振り返り】

	指導者の問いかけ	生徒の振り返り
研究協議前までの実践	話し合いをして分かったことや、これからがんばりたいことを書きましょう。	〇〇さんの思ったことも聞いて、あーなるほどそれもあるなと思いました。
研究協議後の実践	誰の、どのような意見を聞いて、自分の考えがどのように変わったのかを書きましょう。	〇〇さんの意見を聞いて、母はがまん強いんだなと思いました。(中略) 子どもたちを守るためにずっとがまんしていたんだなと思いました。

ウ 成果と課題

実践から、学習評価における重点を確認できた(資料8)。また、今回の実践で得られた知見、及び石井・鈴木(2021)を参照し、「指導と評価の一体化」を目指す授業を資料5にまとめた。

このような授業を実現していく上で、授業マネジメントシートは非常に有用であると言える。

今後の課題は、振り返りシートの評価における活用方法を見極めることである。振り返りシートは、自己評価の力を育む教材の一つである。同時に、「思考・判断・表現」または「主体的に学習に取り組む態度」を見取るための手段ともなる。振り返りシートを評価に活用する場合に必要な条件として、効果的な問いかけ方を検討する必要がある。

【資料8 学習評価におけるポイント】

1	評価の場面として、単元のヤマ場を設定すること
2	振り返りでは、限定的な問いかけを設定すること
3	主体的に学習に取り組む態度を、知識及び技能、または思考力・判断力・表現力の獲得に向かう姿として具体的にイメージすること

【資料9 指導と評価の一体化を目指す授業】

<input checked="" type="checkbox"/>	学習目標を基に、授業のヤマ場を設定する
<input checked="" type="checkbox"/>	ヤマ場を中心に、単元の構想を練る
<input checked="" type="checkbox"/>	生徒にゴールを伝える
<input checked="" type="checkbox"/>	形成的評価を基に、授業を改善する
<input checked="" type="checkbox"/>	ヤマ場の姿や作成物を基に、総合的評価をする
<input checked="" type="checkbox"/>	振り返りを通し、学びの実感を促す

5 研究(中間報告)のまとめと今後の課題

各研究協力校に、実態に応じて授業マネジメントシートや振り返りシートを活用してもらい、その効果について研究協議を行うことで、授業マネジメントシートは、単元を見通した評価計画や振り返りの視点等を視覚的に捉えることができ、授業改善を意識することにつながるということが分かった。また、指導と評価を一体化するために、評価の場面を設定することの重要性や思考が深まる場面をヤマ場として捉え、評価する場面を確認することができた。今後は、授業マネジメントシートの内容や振り返りの視点など、より内容を精選し、ねらいに迫るものになるよう、実践を積み重ねていく必要がある。また、児童生徒の学習改善につながる振り返りの工夫について協議、実践を重ねるとともに「主体的に学習に取り組む態度」を見取る視点の一つとして生かす方策を探っていきたい。

<参考文献>

文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編」

国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」

石井英真・鈴木秀幸編著 図書文化社「ヤマ場をおさえる学習評価 中学校」